

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	国語総合古典編(大修館書店)/新訂総合国語便覧(第一学習社)				
担当教員	大島 由紀夫				
到達目標					
古典を読解・鑑賞する能力を伸ばすとともに、ものの見方や考え方を豊かにし、日本文化に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。		
評価項目2	文意をふまえて、古文・漢文の音読に習熟し、リズムを味わうことができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読できない。		
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A-1					
教育方法等					
概要	1年次既習「古典」の学習成果に基づき、基礎的な古典文法や古典常識を現代のそれと比較しつつ古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。古文教材においては、歴史・文化等の作品成立背景を理解しながら、『古今和歌集』『平家物語』をとりあげて読解・鑑賞し、現代と対照しつつ日本文化の諸相を概観する。漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・唐詩・『十八史略』をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。				
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。				
注意点	〈声に出して読むこと〉〈辞書をひいて調べること〉を大切にしてください。また、ノートは「板書を写すもの」ではなく、「自らがつくるもの」であることに留意してください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する。これまでの古典学習の成果を確認する。	
		2週	日本語の表記と発音(1)	日本語の表記方法の成り立ちについて概要を理解する。	
		3週	日本語の表記と発音(2)	日本語の発音の変遷について概要を理解する。	
		4週	日本語の表記と発音(3)	日本語の表記方法の変遷について概要を理解する。	
		5週	古今和歌集(1)	韻文表現の史的展開について概要を理解する。集の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		6週	古今和歌集(2)	仮名序の冒頭部を読解する。読解に必要な文法を理解する。	
		7週	古今和歌集(3)	所収歌を読解・鑑賞する。読解に必要な和歌の修辞・技巧を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	古今和歌集(4)	所収歌を読解・鑑賞する。各歌の特色をふまえて感想をまとめる。	
		10週	平家物語(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		11週	平家物語(2)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。文体の特色を理解し、音読に習熟する。	
		12週	平家物語(3)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。敬語表現を理解する。	
		13週	平家物語(4)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。頻出助動詞の用法を理解する。	
		14週	平家物語(5)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。当代「武士の世界」について理解を深める。	
		15週	平家物語(6)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。現代語訳の作成に習熟する。	
		16週	平家物語(7)	読解・鑑賞の成果をまとめる。音読テストに合格する。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門(1)	訓読法の基礎を理解する。	
		2週	漢文入門(2)	訓点に従って短い漢文を訓読できる。	
		3週	漢文入門(3)	再読文字や助字の用法を理解する。	
		4週	故事(1)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。訓点に従って文章を訓読できる。	
		5週	故事(2)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。書き下し文を作成することができる。	

4thQ	6週	故事(3)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。 語法等を理解して現代語に訳することができる。
	7週	故事(4)	故事成語のいわれや意味について調べ、理解する。
	8週	中間試験	
	9週	漢詩(1)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	10週	漢詩(2)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	11週	漢詩(3)	李白・杜甫など、代表的な詩人について調べ、文学史上での位置づけを理解する。
	12週	十八史略(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。
	13週	十八史略(2)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 訓点に従って訓読することができる。
	14週	十八史略(3)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 書き下し文を作成することができる。
	15週	十八史略(4)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 読解に必要な語法をふまえて現代語に訳することができる。
	16週	十八史略(5)	時代背景をふまえつつ、「臥薪嘗胆」の内容を理解する。 音読テストに合格する。

評価割合

	試験	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 国語総合 現代文編 大修館書店 9784469622751 参考書 新訂 総合国語便覧 第一学習社 9784804033013 参考書 常用漢字フォルダ 浜島書店				
担当教員	太田 たまき				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 論理的な文章を客観的に理解することができる。 <input type="checkbox"/> 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 <input type="checkbox"/> 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章を十分に客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を十分に多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができない。		
評価項目3	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を十分に養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-1					
教育方法等					
概要	論理的文章を教材とする授業においては、語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、論旨の把握、意見文の書き方を身につける。 文学的文章・韻文を教材とする授業においては、登場人物の心理を筋に即して読み取ること、あるいは凝縮された表現からイメージを膨らませる鑑賞力を身に付けるとともに、それに対する感想を表現できる力を養う。				
授業の進め方・方法	2年生の国語表現は、他者の書いた文章を正確に理解することから始まり、そこから自分の意見を持ち、表現する力へと発展させていきます。ノートは縦書き使用を原則とし、授業には常に国語辞典と国語便覧を持参してください。授業の冒頭に毎回漢字テストを行いますので、予習の習慣を身につけましょう。				
注意点	『新訂 総合国語便覧』（第一学習社）の「夏目漱石」（pp.272-277）「遠藤周作」（p.301）、「意見文」「読書感想文」の書き方の説明（pp.456-461）を読んでおいてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスガイダンス 国語表現の授業の概要を述べ、その意義と目的について説明する。		
		2週	夢十夜（小説1） 夏目漱石や近代文学について基本的な知識を学ぶ。		
		3週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		4週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		5週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		6週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		7週	感想文の基礎		
		8週	コルベ神父（小説2） 遠藤周作についての文学史的知識を得る。		
	2ndQ	9週	コルベ神父（小説2）		
		10週	コルベ神父（小説2）		
		11週	コルベ神父（小説2）		
		12週	レポートの書き方		
		13週	感想文の基礎		
		14週	感想文の組み立て		
		15週	原稿用紙の使い方の確認と清書		
		16週			
後期	3rdQ	1週	「しきり」の文化論（評論1）		
		2週	「しきり」の文化論（評論1）		
		3週	「しきり」の文化論（評論1）		
		4週	「しきり」の文化論（評論1）		
		5週	小論文の書き方（1）		
		6週	小論文の書き方（2）		
		7週	小論文の書き方（3）		
		8週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
	4thQ	9週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		10週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		11週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		

	12週	小論文の実践（1）	
	13週	小論文の実践（2）	
	14週	小論文の実践（3）	
	15週	小論文の実践（4）	
	16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	提出物	漢字テスト	合計
総合評価割合	40	40	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	40	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学B
科目基礎情報				
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育	対象学年	2	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	新線形代数学			
担当教員	吉田 はん, 矢口 義朗			

到達目標				
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 <input type="checkbox"/> ベクトルの定義を理解し基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 <input type="checkbox"/> 空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 <input type="checkbox"/> 逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 行列を利用して連立方程式を解くことができる。				

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。	行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	行列の和・差・積、数との積の計算ができる。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程 B-1

教育方法等

概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。
授業の進め方・方法	
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの成分表示ができる。
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		5週	平面のベクトル (5)	内積を応用して二つのベクトルのなす角を求めることができる。
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの平行条件を利用することができる。
		7週	平面のベクトル (7)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。
		8週	平面のベクトル、空間のベクトル (1)	直線のベクトル方程式を理解できる。
	2ndQ	9週	平面のベクトル、空間のベクトル (2)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。
		8週	行列 (6)	転置行列を理解できる。
	4thQ	9週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		10週	行列 (8)	逆行列や転置行列の応用問題を解ける。

	11週	連立1次方程式(1)	消去法を理解できる。
	12週	連立1次方程式(2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
	13週	連立1次方程式(3)	消去法で逆行列を求められる。
	14週	連立1次方程式(4)	逆行列を使って連立1次方程式を解ける。
	15週	連立1次方程式(5)	行列の階数を求められる。
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育
科目基礎情報					
科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	佐藤 孝之				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 <input type="checkbox"/> 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	ルールを理解し、説明できる。	ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない。	よくわからないし、ルールも理解できていない。		
	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた。	友人のマネをしながら安全に効率よく動けた。	安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった。		
	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた。	積極的に参加したいと思っていた。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った。	とりあえず、準備片付けは手伝った。	特に何もしなかった。		
	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した。	とりあえず、自分の役割は果たした。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A					
教育方法等					
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。				
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意	授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。	
		2週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		3週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		4週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
		12週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		13週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。	
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	

4thQ	2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
	16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	MY WAY English Communication II (三省堂)				
担当教員	飯野 一彦				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英熟語の意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。 <input type="checkbox"/> 上記の理解に基づきながら、教科書の英文を読み、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 音声から教科書の英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書に出てくる英単語の意味と発音を正確に理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できない。		
評価項目2	教科書に出てくる英文法の事項を正確に理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できない。		
評価項目3	教科書の英文を読み、内容を正確に理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	本授業では、基本的な語彙と熟語を理解し、文法に基づいて、基本的な英文を理解できるようにする。				
授業の進め方・方法	本授業では、まず基本的な語彙と熟語をリスニングや発音を含めて学習する。次に、習得した語彙をもとに、文法に基づいて正しく英文を理解する訓練を行う。				
注意点	本授業では、予習・復習を確実にを行い、地道に学習を継続することが要求される。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容・方法の概要説明	授業内容・方法の理解	
		2週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		3週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		4週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		5週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		6週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		7週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項の理解	
	2ndQ	9週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		10週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		11週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		12週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		13週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		14週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		15週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		16週	前期末試験	既習の学習事項の理解	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		2週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		3週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		4週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		5週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		6週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	

4thQ	7週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解
	8週	後期中間試験	既習の学習事項の理解
	9週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	10週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	11週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	12週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	13週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	14週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	15週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
16週	後期期末試験	既習の学習事項の理解	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Circuit 読解力・作文力のための重要表現 Basic 55; 米山達郎編著: いいずな書店参考書: 総合英語 be New Edition; 平賀正子監修、鈴木希明編著: いいずな書店※ 授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。				
担当教員	八鳥 吉明				
到達目標					
教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 教科書に出てくる英熟語の意味と発音を理解できる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を読むことができる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を書くことができる。 音声から英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基本文法をよく理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法をある程度理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法を理解し、英文を読み、書くことができない。		
評価項目2	基本文法をよく理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法をある程度理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法を理解し、演習問題を解くことができない。		
評価項目3	重要語彙をよく理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙をある程度理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙を理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	1. 単語・熟語・・・単語・熟語の習得を通して語彙力をつける。 2. 英文法・・・演習問題を通して英文法の基本事項を習得する。 3. 英文読解・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 4. 英作文・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を書く訓練を行う。 5. リスニング・・・音声から英語を理解する訓練を行う。 6. 発音・音読・・・英単語の発音に注意を払い、英文の音読訓練を行なう。				
授業の進め方・方法	授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。 まず、教科書の解説を確認し、その上で学習内容を整理する。 その後、文法問題の演習を行いながら、重要語彙の確認も行なう。 最後に、英文のシャドーイングを行う。				
注意点	主体的に取り組み、「実力」をつけること。 そのために、予習・復習を確実にすること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	01 「…している」は現在形か現在進行形か 02 「…している」が現在進行形にできない動詞	現在形と現在進行形を理解できる。	
		2週	03 過去時制と現在完了の使い分け 04 現在完了進行形	過去形と現在完了（進行）形を理解できる。	
		3週	05 〈時〉を表す副詞節の時制 (when) 06 〈条件〉を表す副詞節の時制 (if)	時と条件を表す副詞節の時制表現を理解できる。	
		4週	07 助動詞+have done 「…したはずがない」など 08 助動詞+have done 「…すべきだった」など	〈助動詞+完了形〉の表現を理解できる。	
		5週	09 仮定法過去と仮定法過去完了 10 If S should do 「(万一) …すれば」	仮定法過去と仮定法過去完了を理解できる。	
		6週	11 If it were not for A 「もしAがなければ」など 12 ifの省略	仮定法を用いた定型表現を理解できる。	
		7週	13 It is + 形容詞 + for[of] A to do 14 find it + 形容詞 + to do 「…することは～であるとわかる」	形式主語・形式目的語のitと不定詞の関係を理解できる。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項を理解できる。	
	2ndQ	9週	15 A is + 形容詞 + to do 16 ~ enough to do / too ~ to do	不定詞を用いた定型表現を理解できる。	
		10週	17 tell A to do 「Aに…するように言う」など 18 be said to do 「…とされている」	〈S + V + O + to do〉の構文を理解できる。	
		11週	19 動名詞を用いた定型表現① 20 動名詞を用いた定型表現②	動名詞を用いた定型表現を理解できる。	
		12週	21 目的語として動名詞をあとに続ける他動詞 22 目的語が動名詞か不定詞かで意味が変わる他動詞	他動詞と目的語の不定詞・動名詞の関係を理解できる。	
		13週	23 使役動詞 (let / make) 24 使役動詞 (have)	使役動詞を理解できる。	
		14週	25 SVO doingとSVO doneの使い分け 26 知覚動詞+O+do / doing / doneの使い分け	知覚動詞と〈S + V + O + 分詞〉の構文を理解できる。	
		15週	27 分詞構文 28 付帯状況のwith	分詞構文を理解できる。	
		16週	前期定期試験	既習の学習事項を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	29 分詞形容詞	形容詞の分詞的用法を理解できる。	

4thQ	2週	32 関係代名詞① (目的格) 33 関係代名詞② (所有格)	関係代名詞の基本的表現を理解できる。
	3週	34 関係代名詞③ (前置詞の目的語) 35 前置詞+ which/関係副詞	関係代名詞と前置詞の関係を理解できる。
	4週	36 関係代名詞whatの用法 37 関係代名詞thatと接続詞that	関係代名詞のwhatを理解できる。 関係代名詞のthatと接続詞のthatの違いを理解できる。
	5週	38 so ... that ~ 「とても…なので~」 39 such ... that ~ 「とても…なので~」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	6週	40 ... so that ~ 「~するために [ように] …する」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	7週	41 接続詞as 42 名詞節を導く接続詞 (whether / if)	接続詞の as / whether / if を理解できる。
	8週	後期中間試験	既習の学習事項を理解できる。
	9週	45 可算名詞と不可算名詞 46 数・量を表す形容詞	可算名詞と不可算名詞を理解できる。 数・量を表す形容詞を理解できる。
	10週	43 and / or / butの用法 44 and / or / butを用いた慣用表現	接続詞の and / or / but を理解できる。
	11週	47 原級を用いた倍数表現 48 原級を用いた慣用表現	原級を用いた比較表現を理解できる。
	12週	49 (the+比較級) を用いた表現 50 最上級の意味を表す表現	比較を用いた定型表現を理解できる。
	13週	51 間接疑問 52 倒置	間接疑問と倒置の表現を理解できる。
	14週	53 強調構文	強調構文を理解できる。
	15週	54 全否定と部分否定 55 no / notを含まない否定表現	否定表現を理解できる。
	16週	後期定期試験	既習の学習事項を理解できる。

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	国語総合古典編(大修館書店)/新訂総合国語便覧(第一学習社)				
担当教員	大島 由紀夫				
到達目標					
古典を読解・鑑賞する能力を伸ばすとともに、ものの見方や考え方を豊かにし、日本文化に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。
評価項目2	文意をふまえて、古文・漢文の音読に習熟し、リズムを味わうことができる。		文意をふまえて古文・漢文を音読することができる。		文意をふまえて古文・漢文を音読できない。
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A-1					
教育方法等					
概要	1年次既習「古典」の学習成果に基づき、基礎的な古典文法や古典常識を現代のそれと比較しつつ古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。古文教材においては、歴史・文化等の作品成立背景を理解しながら、『古今和歌集』『平家物語』をとりあげて読解・鑑賞し、現代と対照しつつ日本文化の諸相を概観する。漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・唐詩・『十八史略』をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。				
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。				
注意点	〈声に出して読むこと〉〈辞書をひいて調べること〉を大切にしてください。また、ノートは「板書を写すもの」ではなく、「自らがつくるもの」であることに留意してください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する。これまでの古典学習の成果を確認する。	
		2週	日本語の表記と発音(1)	日本語の表記方法の成り立ちについて概要を理解する。	
		3週	日本語の表記と発音(2)	日本語の発音の変遷について概要を理解する。	
		4週	日本語の表記と発音(3)	日本語の表記方法の変遷について概要を理解する。	
		5週	古今和歌集(1)	韻文表現の史的展開について概要を理解する。集の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		6週	古今和歌集(2)	仮名序の冒頭部を読解する。読解に必要な文法を理解する。	
		7週	古今和歌集(3)	所収歌を読解・鑑賞する。読解に必要な和歌の修辞・技巧を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	古今和歌集(4)	所収歌を読解・鑑賞する。各歌の特色をふまえて感想をまとめる。	
		10週	平家物語(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		11週	平家物語(2)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。文体の特色を理解し、音読に習熟する。	
		12週	平家物語(3)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。敬語表現を理解する。	
		13週	平家物語(4)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。頻出助動詞の用法を理解する。	
		14週	平家物語(5)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。当代「武士の世界」について理解を深める。	
		15週	平家物語(6)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。現代語訳の作成に習熟する。	
		16週	平家物語(7)	読解・鑑賞の成果をまとめる。音読テストに合格する。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門(1)	訓読法の基礎を理解する。	
		2週	漢文入門(2)	訓点に従って短い漢文を訓読できる。	
		3週	漢文入門(3)	再読文字や助字の用法を理解する。	
		4週	故事(1)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。訓点に従って文章を訓読できる。	
		5週	故事(2)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。書き下し文を作成することができる。	

4thQ	6週	故事(3)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。 語法等を理解して現代語に訳することができる。
	7週	故事(4)	故事成語のいわれや意味について調べ、理解する。
	8週	中間試験	
	9週	漢詩(1)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	10週	漢詩(2)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	11週	漢詩(3)	李白・杜甫など、代表的な詩人について調べ、文学史上での位置づけを理解する。
	12週	十八史略(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。
	13週	十八史略(2)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 訓点に従って訓読することができる。
	14週	十八史略(3)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 書き下し文を作成することができる。
	15週	十八史略(4)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 読解に必要な語法をふまえて現代語に訳することができる。
	16週	十八史略(5)	時代背景をふまえて、「臥薪嘗胆」の内容を理解する。 音読テストに合格する。

評価割合

	試験	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 国語総合 現代文編 大修館書店 9784469622751 参考書 新訂 総合国語便覧 第一学習社 9784804033013 参考書 常用漢字フォルダ 浜島書店				
担当教員	太田 たまき				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 論理的な文章を客観的に理解することができる。 <input type="checkbox"/> 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 <input type="checkbox"/> 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章を十分に客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を十分に多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができない。		
評価項目3	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を十分に養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-1					
教育方法等					
概要	論理的文章を教材とする授業においては、語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、論旨の把握、意見文の書き方を身につける。 文学的文章・韻文を教材とする授業においては、登場人物の心理を筋に即して読み取ること、あるいは凝縮された表現からイメージを膨らませる鑑賞力を身に付けるとともに、それに対する感想を表現できる力を養う。				
授業の進め方・方法	2年生の国語表現は、他者の書いた文章を正確に理解することから始まり、そこから自分の意見を持ち、表現する力へと発展させていきます。ノートは縦書き使用を原則とし、授業には常に国語辞典と国語便覧を持参してください。授業の冒頭に毎回漢字テストを行いますので、予習の習慣を身につけましょう。				
注意点	『新訂 総合国語便覧』（第一学習社）の「夏目漱石」（pp.272-277）「遠藤周作」（p.301）、「意見文」「読書感想文」の書き方の説明（pp.456-461）を読んでおいてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスガイダンス 国語表現の授業の概要を述べ、その意義と目的について説明する。		
		2週	夢十夜（小説1） 夏目漱石や近代文学について基本的な知識を学ぶ。		
		3週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		4週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		5週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		6週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		7週	感想文の基礎		
		8週	コルベ神父（小説2） 遠藤周作についての文学史的知識を得る。		
	2ndQ	9週	コルベ神父（小説2）		
		10週	コルベ神父（小説2）		
		11週	コルベ神父（小説2）		
		12週	レポートの書き方		
		13週	感想文の基礎		
		14週	感想文の組み立て		
		15週	原稿用紙の使い方の確認と清書		
		16週			
後期	3rdQ	1週	「しきり」の文化論（評論1）		
		2週	「しきり」の文化論（評論1）		
		3週	「しきり」の文化論（評論1）		
		4週	「しきり」の文化論（評論1）		
		5週	小論文の書き方（1）		
		6週	小論文の書き方（2）		
		7週	小論文の書き方（3）		
		8週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
	4thQ	9週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		10週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		11週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		

	12週	小論文の実践（1）	
	13週	小論文の実践（2）	
	14週	小論文の実践（3）	
	15週	小論文の実践（4）	
	16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	提出物	漢字テスト	合計
総合評価割合	40	40	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	40	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育
科目基礎情報					
科目番号	0021	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	佐藤 孝之				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 <input type="checkbox"/> 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	ルールを理解し、説明できる。	ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない。	よくわからないし、ルールも理解できていない。		
	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた。	友人のマネをしながら安全に効率よく動けた。	安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった。		
	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた。	積極的に参加したいと思っていた。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った。	とりあえず、準備片付けは手伝った。	特に何もしなかった。		
	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した。	とりあえず、自分の役割は果たした。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A					
教育方法等					
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。				
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意	授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。	
		2週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		3週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		4週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
		12週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		13週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。	
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	

4thQ	2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
	16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	MY WAY English Communication II (三省堂)				
担当教員	飯野 一彦				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英熟語の意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。 <input type="checkbox"/> 上記の理解に基づきながら、教科書の英文を読み、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 音声から教科書の英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書に出てくる英単語の意味と発音を正確に理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できない。		
評価項目2	教科書に出てくる英文法の事項を正確に理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できない。		
評価項目3	教科書の英文を読み、内容を正確に理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	本授業では、基本的な語彙と熟語を理解し、文法に基づいて、基本的な英文を理解できるようにする。				
授業の進め方・方法	本授業では、まず基本的な語彙と熟語をリスニングや発音を含めて学習する。次に、習得した語彙をもとに、文法に基づいて正しく英文を理解する訓練を行う。				
注意点	本授業では、予習・復習を確実にを行い、地道に学習を継続することが要求される。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容・方法の概要説明	授業内容・方法の理解	
		2週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		3週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		4週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		5週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		6週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		7週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項の理解	
	2ndQ	9週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		10週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		11週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		12週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		13週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		14週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		15週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		16週	前期末試験	既習の学習事項の理解	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		2週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		3週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		4週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		5週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		6週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	

4thQ	7週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解
	8週	後期中間試験	既習の学習事項の理解
	9週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	10週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	11週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	12週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	13週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	14週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	15週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
16週	後期期末試験	既習の学習事項の理解	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Circuit 読解力・作文力のための重要表現 Basic 55; 米山達郎編著: いいずな書店参考書: 総合英語 be New Edition; 平賀正子監修、鈴木希明編著: いいずな書店※ 授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。				
担当教員	八鳥 吉明				
到達目標					
教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 教科書に出てくる英熟語の意味と発音を理解できる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を読むことができる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を書くことができる。 音声から英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本文法をよく理解し、英文を読み、書くことができる。		基本文法をある程度理解し、英文を読み、書くことができる。		基本文法を理解し、英文を読み、書くことができない。
評価項目2	基本文法をよく理解し、演習問題を解くことができる。		基本文法をある程度理解し、演習問題を解くことができる。		基本文法を理解し、演習問題を解くことができない。
評価項目3	重要語彙をよく理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。		重要語彙をある程度理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。		重要語彙を理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単語・熟語・・・単語・熟語の習得を通して語彙力をつける。 2. 英文法・・・演習問題を通して英文法の基本事項を習得する。 3. 英文読解・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 4. 英作文・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を書く訓練を行う。 5. リスニング・・・音声から英語を理解する訓練を行う。 6. 発音・音読・・・英単語の発音に注意を払い、英文の音読訓練を行なう。 				
授業の進め方・方法	授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。 まず、教科書の解説を確認し、その上で学習内容を整理する。 その後、文法問題の演習を行いながら、重要語彙の確認も行なう。 最後に、英文のシャドーイングを行う。				
注意点	主体的に取り組み、「実力」をつけること。 そのために、予習・復習を確実にすること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	01 「…している」は現在形か現在進行形か 02 「…している」が現在進行形にできない動詞	現在形と現在進行形を理解できる。	
		2週	03 過去時制と現在完了の使い分け 04 現在完了進行形	過去形と現在完了（進行）形を理解できる。	
		3週	05 〈時〉を表す副詞節の時制 (when) 06 〈条件〉を表す副詞節の時制 (if)	時と条件を表す副詞節の時制表現を理解できる。	
		4週	07 助動詞+have done 「…したはずがない」など 08 助動詞+have done 「…すべきだった」など	〈助動詞+完了形〉の表現を理解できる。	
		5週	09 仮定法過去と仮定法過去完了 10 If S should do 「(万一) …すれば」	仮定法過去と仮定法過去完了を理解できる。	
		6週	11 If it were not for A 「もしAがなければ」など 12 ifの省略	仮定法を用いた定型表現を理解できる。	
		7週	13 It is + 形容詞 + for[of] A to do 14 find it + 形容詞 + to do 「…することは～であるとわかる」	形式主語・形式目的語のitと不定詞の関係を理解できる。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項を理解できる。	
	2ndQ	9週	15 A is + 形容詞 + to do 16 ~ enough to do / too ~ to do	不定詞を用いた定型表現を理解できる。	
		10週	17 tell A to do 「Aに…するように言う」など 18 be said to do 「…とされている」	〈S + V + O + to do〉の構文を理解できる。	
		11週	19 動名詞を用いた定型表現① 20 動名詞を用いた定型表現②	動名詞を用いた定型表現を理解できる。	
		12週	21 目的語として動名詞をあとに続ける他動詞 22 目的語が動名詞か不定詞かで意味が変わる他動詞	他動詞と目的語の不定詞・動名詞の関係を理解できる。	
		13週	23 使役動詞 (let / make) 24 使役動詞 (have)	使役動詞を理解できる。	
		14週	25 SVO doingとSVO doneの使い分け 26 知覚動詞+O+do / doing / doneの使い分け	知覚動詞と〈S + V + O + 分詞〉の構文を理解できる。	
		15週	27 分詞構文 28 付帯状況のwith	分詞構文を理解できる。	
		16週	前期定期試験	既習の学習事項を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	29 分詞形容詞	形容詞の分詞的用法を理解できる。	

4thQ	2週	32 関係代名詞① (目的格) 33 関係代名詞② (所有格)	関係代名詞の基本的表現を理解できる。
	3週	34 関係代名詞③ (前置詞の目的語) 35 前置詞+ which/関係副詞	関係代名詞と前置詞の関係を理解できる。
	4週	36 関係代名詞whatの用法 37 関係代名詞thatと接続詞that	関係代名詞のwhatを理解できる。 関係代名詞のthatと接続詞のthatの違いを理解できる。
	5週	38 so ... that ~ 「とても…なので~」 39 such ... that ~ 「とても…なので~」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	6週	40 ... so that ~ 「~するために [ように] …する」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	7週	41 接続詞as 42 名詞節を導く接続詞 (whether / if)	接続詞の as / whether / if を理解できる。
	8週	後期中間試験	既習の学習事項を理解できる。
	9週	45 可算名詞と不可算名詞 46 数・量を表す形容詞	可算名詞と不可算名詞を理解できる。 数・量を表す形容詞を理解できる。
	10週	43 and / or / butの用法 44 and / or / butを用いた慣用表現	接続詞の and / or / but を理解できる。
	11週	47 原級を用いた倍数表現 48 原級を用いた慣用表現	原級を用いた比較表現を理解できる。
	12週	49 (the+比較級) を用いた表現 50 最上級の意味を表す表現	比較を用いた定型表現を理解できる。
	13週	51 間接疑問 52 倒置	間接疑問と倒置の表現を理解できる。
	14週	53 強調構文	強調構文を理解できる。
	15週	54 全否定と部分否定 55 no / notを含まない否定表現	否定表現を理解できる。
	16週	後期定期試験	既習の学習事項を理解できる。

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0025	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	国語総合古典編(大修館書店)/新訂総合国語便覧(第一学習社)				
担当教員	大島 由紀夫				
到達目標					
古典を読解・鑑賞する能力を伸ばすとともに、ものの見方や考え方を豊かにし、日本文化に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。		
評価項目2	文意をふまえて、古文・漢文の音読に習熟し、リズムを味わうことができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができない。		
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A-1					
教育方法等					
概要	1年次既習「古典」の学習成果に基づき、基礎的な古典文法や古典常識を現代のそれと比較しつつ古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。古文教材においては、歴史・文化等の作品成立背景を理解しながら、『古今和歌集』『平家物語』をとりあげて読解・鑑賞し、現代と対照しつつ日本文化の諸相を概観する。漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・唐詩・『十八史略』をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。				
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。				
注意点	〈声に出して読むこと〉〈辞書をひいて調べること〉を大切にしてください。また、ノートは「板書を写すもの」ではなく、「自らがつくるもの」であることに留意してください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する。これまでの古典学習の成果を確認する。	
		2週	日本語の表記と発音(1)	日本語の表記方法の成り立ちについて概要を理解する。	
		3週	日本語の表記と発音(2)	日本語の発音の変遷について概要を理解する。	
		4週	日本語の表記と発音(3)	日本語の表記方法の変遷について概要を理解する。	
		5週	古今和歌集(1)	韻文表現の史的展開について概要を理解する。集の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		6週	古今和歌集(2)	仮名序の冒頭部を読解する。読解に必要な文法を理解する。	
		7週	古今和歌集(3)	所収歌を読解・鑑賞する。読解に必要な和歌の修辞・技巧を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	古今和歌集(4)	所収歌を読解・鑑賞する。各歌の特色をふまえて感想をまとめる。	
		10週	平家物語(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		11週	平家物語(2)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。文体の特色を理解し、音読に習熟する。	
		12週	平家物語(3)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。敬語表現を理解する。	
		13週	平家物語(4)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。頻出助動詞の用法を理解する。	
		14週	平家物語(5)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。当代「武士の世界」について理解を深める。	
		15週	平家物語(6)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。現代語訳の作成に習熟する。	
		16週	平家物語(7)	読解・鑑賞の成果をまとめる。音読テストに合格する。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門(1)	訓読法の基礎を理解する。	
		2週	漢文入門(2)	訓点に従って短い漢文を訓読できる。	
		3週	漢文入門(3)	再読文字や助字の用法を理解する。	
		4週	故事(1)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。訓点に従って文章を訓読できる。	
		5週	故事(2)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。書き下し文を作成することができる。	

4thQ	6週	故事(3)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。 語法等を理解して現代語に訳することができる。
	7週	故事(4)	故事成語のいわれや意味について調べ、理解する。
	8週	中間試験	
	9週	漢詩(1)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	10週	漢詩(2)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	11週	漢詩(3)	李白・杜甫など、代表的な詩人について調べ、文学史上での位置づけを理解する。
	12週	十八史略(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。
	13週	十八史略(2)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 訓点に従って訓読することができる。
	14週	十八史略(3)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 書き下し文を作成することができる。
	15週	十八史略(4)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 読解に必要な語法をふまえて現代語に訳することができる。
	16週	十八史略(5)	時代背景をふまえて、「臥薪嘗胆」の内容を理解する。 音読テストに合格する。

評価割合

	試験	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 国語総合 現代文編 大修館書店 9784469622751 参考書 新訂 総合国語便覧 第一学習社 9784804033013 参考書 常用漢字フォルダ 浜島書店				
担当教員	太田 たまき				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 論理的な文章を客観的に理解することができる。 <input type="checkbox"/> 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 <input type="checkbox"/> 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章を十分に客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を十分に多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができない。		
評価項目3	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を十分に養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-1					
教育方法等					
概要	論理的文章を教材とする授業においては、語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、論旨の把握、意見文の書き方を身につける。文学的文章・韻文を教材とする授業においては、登場人物の心理を筋に即して読み取ること、あるいは凝縮された表現からイメージを膨らませる鑑賞力を身に付けるとともに、それに対する感想を表現できる力を養う。				
授業の進め方・方法	2年生の国語表現は、他者の書いた文章を正確に理解することから始まり、そこから自分の意見を持ち、表現する力へと発展させていきます。ノートは縦書き使用を原則とし、授業には常に国語辞典と国語便覧を持参してください。授業の冒頭に毎回漢字テストを行いますので、予習の習慣を身につけましょう。				
注意点	『新訂 総合国語便覧』（第一学習社）の「夏目漱石」（pp.272-277）「遠藤周作」（p.301）、「意見文」「読書感想文」の書き方の説明（pp.456-461）を読んでおいてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスガイダンス 国語表現の授業の概要を述べ、その意義と目的について説明する。		
		2週	夢十夜（小説1） 夏目漱石や近代文学について基本的な知識を学ぶ。		
		3週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		4週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		5週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		6週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		7週	感想文の基礎		
		8週	コルベ神父（小説2） 遠藤周作についての文学史的知識を得る。		
	2ndQ	9週	コルベ神父（小説2）		
		10週	コルベ神父（小説2）		
		11週	コルベ神父（小説2）		
		12週	レポートの書き方		
		13週	感想文の基礎		
		14週	感想文の組み立て		
		15週	原稿用紙の使い方の確認と清書		
		16週			
後期	3rdQ	1週	「しきり」の文化論（評論1）		
		2週	「しきり」の文化論（評論1）		
		3週	「しきり」の文化論（評論1）		
		4週	「しきり」の文化論（評論1）		
		5週	小論文の書き方（1）		
		6週	小論文の書き方（2）		
		7週	小論文の書き方（3）		
		8週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
	4thQ	9週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		10週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		11週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		

	12週	小論文の実践（1）	
	13週	小論文の実践（2）	
	14週	小論文の実践（3）	
	15週	小論文の実践（4）	
	16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	提出物	漢字テスト	合計
総合評価割合	40	40	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	40	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理 I
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 総合物理1—力と運動・熱—: 國友 正和 (ほか) 著: 数研出版: 978-4410812026 教科書: 総合物理2—波・電気と磁気・原子—: 國友 正和 (ほか) 著: 数研出版: 978-4410812125 傍用問題集: 改訂版リードα物理基礎・物理: 数研出版編集部 編: 数研出版: 978-4410262753 図解: 新課程フォトサイエンス物理図録: 数研出版編集部 編: 数研出版: 978-4410263125 他に, 新課程フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気(数研出版)および新課程フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気(数研出版)も傍用問題集として指定する.				
担当教員	柴田 恭幸				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 <input type="checkbox"/> 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。		
評価項目2	正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。	正弦波の式について理解し, 図示することができる。	正弦波の式について理解し, 図示することができない。		
評価項目3	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。		
評価項目4	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 B-1					
教育方法等					
概要	高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。				
授業の進め方・方法	座学, 演実実験など				
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)	熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。	
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)	気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。 気体の分子運動について説明できる。	
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)	熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。	
		4週	波(1) (問題集単元14, 15)	縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。	
		5週	波(2) (問題集単元14, 15)	波の反射について説明できる。	
		6週	波(3) (問題集単元16)	平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。	
		7週	中間試験	第1週-第5週の講義内容に関する試験	
		8週	音(1) (問題集単元17)	音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。	
	2ndQ	9週	音(2) (問題集単元18)	ドップラー効果に関する計算と説明ができる。	
		10週	光(1) (問題集単元19)	光の性質と進み方について説明できる。	
		11週	光(2) (問題集単元19)	レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。	
		12週	光(3) (問題集単元20)	光の回折と干渉について説明できる。	
		13週	静電場(1) (問題集単元21)	電荷と電気力に関する計算と説明ができる。	
		14週	静電場(2) (問題集単元21)	電場に関する計算と説明ができる。	
		15週	静電場(3) (問題集単元21)	電位に関する計算と説明ができる。	

		16週	定期試験	第6週-第15週の講義内容に関する試験			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0032	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	4		
教科書/教材	総合物理 2 一巻・電気と磁気・原子, 改訂版リードα物理基礎・物理, 新課程フォローアップドリル物理基礎/物理, 新課程フォトサイエンス物理図録				
担当教員	柴田 恭幸				
到達目標					
<input type="checkbox"/> コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる。 <input type="checkbox"/> 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる。	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる。	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない。	
評価項目2		電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。	電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。	電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない。	
評価項目3		誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる。	誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる。	誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない。	
評価項目4		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる。	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる。	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する。				
授業の進め方・方法	座学, 演示実験など				
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	電気容量(1)	コンデンサーの性質について理解することができる。	
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗	コンデンサーの並列接続, 直列接続について理解できる。 オームの法則を用いて, 電圧, 電流, 抵抗に関する計算ができる。	
		3週	直流回路 半導体	抵抗の直列接続, 並列接続時の合成抵抗を求めることができる。 キルヒホッフの法則を用いて, 電気回路に関する問題を解くことができる。 半導体の性質を理解することができる。	
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1)	磁界の性質を理解することが出来る。 電流の作る磁界について理解できる。 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。	
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1)	電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。	
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1)	荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。 ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる。	
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導	誘導起電力を求めることができる。 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	交流回路	交流電流・交流電圧の特徴を理解し, 交流回路に関する問題を解くことができる。	
		10週	電磁波	電磁波の性質を理解することができる。	
		11週	電子の発見	電子の性質を説明できる。 電子の比電荷の計算ができる。	
		12週	波動と粒子の二重性	アインシュタインの光子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について, 電子の干渉実験などを通して理解することができる。	

	13週	原子模型 原子核の構成	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
	14週	原子核の崩壊と放射能	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
	15週	原子核の変換と核エネルギー 素粒子と宇宙	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。 素粒子の分類をすることができる。
	16週	後期期末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育
科目基礎情報					
科目番号	0033	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	佐藤 孝之				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 <input type="checkbox"/> 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	ルールを理解し、説明できる。	ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない。	よくわからないし、ルールも理解できていない。		
	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた。	友人のマネをしながら安全に効率よく動けた。	安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった。		
	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた。	積極的に参加したいと思っていた。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った。	とりあえず、準備片付けは手伝った。	特に何もしなかった。		
	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した。	とりあえず、自分の役割は果たした。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A					
教育方法等					
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。				
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意	授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。	
		2週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		3週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		4週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
		12週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		13週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。	
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	

4thQ	2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
	16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0035	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	MY WAY English Communication II (三省堂)				
担当教員	飯野 一彦				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英熟語の意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。 <input type="checkbox"/> 上記の理解に基づきながら、教科書の英文を読み、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 音声から教科書の英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書に出てくる英単語の意味と発音を正確に理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できない。		
評価項目2	教科書に出てくる英文法の事項を正確に理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できない。		
評価項目3	教科書の英文を読み、内容を正確に理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	本授業では、基本的な語彙と熟語を理解し、文法に基づいて、基本的な英文を理解できるようにする。				
授業の進め方・方法	本授業では、まず基本的な語彙と熟語をリスニングや発音を含めて学習する。次に、習得した語彙をもとに、文法に基づいて正しく英文を理解する訓練を行う。				
注意点	本授業では、予習・復習を確実にし、地道に学習を継続することが要求される。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容・方法の概要説明	授業内容・方法の理解	
		2週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		3週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		4週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		5週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		6週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		7週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項の理解	
	2ndQ	9週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		10週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		11週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		12週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		13週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		14週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		15週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		16週	前期末試験	既習の学習事項の理解	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		2週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		3週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		4週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		5週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		6週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	

4thQ	7週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解
	8週	後期中間試験	既習の学習事項の理解
	9週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	10週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	11週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	12週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	13週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	14週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	15週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
16週	後期期末試験	既習の学習事項の理解	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Circuit 読解力・作文力のための重要表現 Basic 55; 米山達郎編著: いいずな書店参考書: 総合英語 be New Edition: 平賀正子監修、鈴木希明編著: いいずな書店※ 授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。				
担当教員	八鳥 吉明				
到達目標					
教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 教科書に出てくる英熟語の意味と発音を理解できる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を読むことができる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を書くことができる。 音声から英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本文法をよく理解し、英文を読み、書くことができる。		基本文法をある程度理解し、英文を読み、書くことができる。		基本文法を理解し、英文を読み、書くことができない。
評価項目2	基本文法をよく理解し、演習問題を解くことができる。		基本文法をある程度理解し、演習問題を解くことができる。		基本文法を理解し、演習問題を解くことができない。
評価項目3	重要語彙をよく理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。		重要語彙をある程度理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。		重要語彙を理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1. 単語・熟語・・・単語・熟語の習得を通して語彙力をつける。 2. 英文法・・・演習問題を通して英文法の基本事項を習得する。 3. 英文読解・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 4. 英作文・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を書く訓練を行う。 5. リスニング・・・音声から英語を理解する訓練を行う。 6. 発音・音読・・・英単語の発音に注意を払い、英文の音読訓練を行なう。				
授業の進め方・方法	授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。 まず、教科書の解説を確認し、その上で学習内容を整理する。 その後、文法問題の演習を行いながら、重要語彙の確認も行なう。 最後に、英文のシャドーイングを行う。				
注意点	主体的に取り組み、「実力」をつけること。 そのために、予習・復習を確実に行うこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	01 「…している」は現在形か現在進行形か 02 「…している」が現在進行形にできない動詞	現在形と現在進行形を理解できる。	
		2週	03 過去時制と現在完了の使い分け 04 現在完了進行形	過去形と現在完了（進行）形を理解できる。	
		3週	05 〈時〉を表す副詞節の時制 (when) 06 〈条件〉を表す副詞節の時制 (if)	時と条件を表す副詞節の時制表現を理解できる。	
		4週	07 助動詞+have done 「…したはずがない」など 08 助動詞+have done 「…すべきだった」など	〈助動詞+完了形〉の表現を理解できる。	
		5週	09 仮定法過去と仮定法過去完了 10 If S should do 「(万一) …すれば」	仮定法過去と仮定法過去完了を理解できる。	
		6週	11 If it were not for A 「もしAがなければ」など 12 ifの省略	仮定法を用いた定型表現を理解できる。	
		7週	13 It is + 形容詞 + for[of] A to do 14 find it + 形容詞 + to do 「…することは～であるとわかる」	形式主語・形式目的語のitと不定詞の関係を理解できる。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項を理解できる。	
	2ndQ	9週	15 A is + 形容詞 + to do 16 ~ enough to do / too ~ to do	不定詞を用いた定型表現を理解できる。	
		10週	17 tell A to do 「Aに…するように言う」など 18 be said to do 「…とされている」	〈S + V + O + to do〉の構文を理解できる。	
		11週	19 動名詞を用いた定型表現① 20 動名詞を用いた定型表現②	動名詞を用いた定型表現を理解できる。	
		12週	21 目的語として動名詞をあとに続ける他動詞 22 目的語が動名詞か不定詞かで意味が変わる他動詞	他動詞と目的語の不定詞・動名詞の関係を理解できる。	
		13週	23 使役動詞 (let / make) 24 使役動詞 (have)	使役動詞を理解できる。	
		14週	25 SVO doingとSVO doneの使い分け 26 知覚動詞+O+do / doing / doneの使い分け	知覚動詞と〈S + V + O + 分詞〉の構文を理解できる。	
		15週	27 分詞構文 28 付帯状況のwith	分詞構文を理解できる。	
		16週	前期定期試験	既習の学習事項を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	29 分詞形容詞	形容詞の分詞的用法を理解できる。	

4thQ	2週	32 関係代名詞① (目的格) 33 関係代名詞② (所有格)	関係代名詞の基本的表現を理解できる。
	3週	34 関係代名詞③ (前置詞の目的語) 35 前置詞+ which/関係副詞	関係代名詞と前置詞の関係を理解できる。
	4週	36 関係代名詞whatの用法 37 関係代名詞thatと接続詞that	関係代名詞のwhatを理解できる。 関係代名詞のthatと接続詞のthatの違いを理解できる。
	5週	38 so ... that ~ 「とても…なので~」 39 such ... that ~ 「とても…なので~」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	6週	40 ... so that ~ 「~するために [ように] …する」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	7週	41 接続詞as 42 名詞節を導く接続詞 (whether / if)	接続詞の as / whether / if を理解できる。
	8週	後期中間試験	既習の学習事項を理解できる。
	9週	45 可算名詞と不可算名詞 46 数・量を表す形容詞	可算名詞と不可算名詞を理解できる。 数・量を表す形容詞を理解できる。
	10週	43 and / or / butの用法 44 and / or / butを用いた慣用表現	接続詞の and / or / but を理解できる。
	11週	47 原級を用いた倍数表現 48 原級を用いた慣用表現	原級を用いた比較表現を理解できる。
	12週	49 (the+比較級) を用いた表現 50 最上級の意味を表す表現	比較を用いた定型表現を理解できる。
	13週	51 間接疑問 52 倒置	間接疑問と倒置の表現を理解できる。
	14週	53 強調構文	強調構文を理解できる。
	15週	54 全否定と部分否定 55 no / notを含まない否定表現	否定表現を理解できる。
	16週	後期定期試験	既習の学習事項を理解できる。

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0037	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	国語総合古典編(大修館書店)/新訂総合国語便覧(第一学習社)				
担当教員	大島 由紀夫				
到達目標					
古典を読解・鑑賞する能力を伸ばすとともに、ものの見方や考え方を豊かにし、日本文化に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。		
評価項目2	文意をふまえて、古文・漢文の音読に習熟し、リズムを味わうことができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができない。		
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A-1					
教育方法等					
概要	1年次既習「古典」の学習成果に基づき、基礎的な古典文法や古典常識を現代のそれと比較しつつ古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。古文教材においては、歴史・文化等の作品成立背景を理解しながら、『古今和歌集』『平家物語』をとりあげて読解・鑑賞し、現代と対照しつつ日本文化の諸相を概観する。漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・唐詩・『十八史略』をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。				
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。				
注意点	〈声に出して読むこと〉〈辞書をひいて調べること〉を大切にしてください。また、ノートは「板書を写すもの」ではなく、「自らがつくるもの」であることに留意してください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する。これまでの古典学習の成果を確認する。	
		2週	日本語の表記と発音(1)	日本語の表記方法の成り立ちについて概要を理解する。	
		3週	日本語の表記と発音(2)	日本語の発音の変遷について概要を理解する。	
		4週	日本語の表記と発音(3)	日本語の表記方法の変遷について概要を理解する。	
		5週	古今和歌集(1)	韻文表現の史的展開について概要を理解する。集の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		6週	古今和歌集(2)	仮名序の冒頭部を読解する。読解に必要な文法を理解する。	
		7週	古今和歌集(3)	所収歌を読解・鑑賞する。読解に必要な和歌の修辞・技巧を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	古今和歌集(4)	所収歌を読解・鑑賞する。各歌の特色をふまえて感想をまとめる。	
		10週	平家物語(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		11週	平家物語(2)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。文体の特色を理解し、音読に習熟する。	
		12週	平家物語(3)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。敬語表現を理解する。	
		13週	平家物語(4)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。頻出助動詞の用法を理解する。	
		14週	平家物語(5)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。当代「武士の世界」について理解を深める。	
		15週	平家物語(6)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。現代語訳の作成に習熟する。	
		16週	平家物語(7)	読解・鑑賞の成果をまとめる。音読テストに合格する。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門(1)	訓読法の基礎を理解する。	
		2週	漢文入門(2)	訓点に従って短い漢文を訓読できる。	
		3週	漢文入門(3)	再読文字や助字の用法を理解する。	
		4週	故事(1)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。訓点に従って文章を訓読できる。	
		5週	故事(2)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。書き下し文を作成することができる。	

4thQ	6週	故事(3)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。 語法等を理解して現代語に訳することができる。
	7週	故事(4)	故事成語のいわれや意味について調べ、理解する。
	8週	中間試験	
	9週	漢詩(1)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	10週	漢詩(2)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	11週	漢詩(3)	李白・杜甫など、代表的な詩人について調べ、文学史上での位置づけを理解する。
	12週	十八史略(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。
	13週	十八史略(2)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 訓点に従って訓読することができる。
	14週	十八史略(3)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 書き下し文を作成することができる。
	15週	十八史略(4)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 読解に必要な語法をふまえて現代語に訳することができる。
	16週	十八史略(5)	時代背景をふまえて、「臥薪嘗胆」の内容を理解する。 音読テストに合格する。

評価割合

	試験	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 国語総合 現代文編 大修館書店 9784469622751 参考書 新訂 総合国語便覧 第一学習社 9784804033013 参考書 常用漢字フォルダ 浜島書店				
担当教員	太田 たまき				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 論理的な文章を客観的に理解することができる。 <input type="checkbox"/> 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 <input type="checkbox"/> 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章を十分に客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を十分に多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができない。		
評価項目3	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を十分に養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-1					
教育方法等					
概要	論理的文章を教材とする授業においては、語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、論旨の把握、意見文の書き方を身につける。 文学的文章・韻文を教材とする授業においては、登場人物の心理を筋に即して読み取ること、あるいは凝縮された表現からイメージを膨らませる鑑賞力を身に付けるとともに、それに対する感想を表現できる力を養う。				
授業の進め方・方法	2年生の国語表現は、他者の書いた文章を正確に理解することから始まり、そこから自分の意見を持ち、表現する力へと発展させていきます。ノートは縦書き使用を原則とし、授業には常に国語辞典と国語便覧を持参してください。授業の冒頭に毎回漢字テストを行いますので、予習の習慣を身につけましょう。				
注意点	『新訂 総合国語便覧』（第一学習社）の「夏目漱石」（pp.272-277）「遠藤周作」（p.301）、「意見文」「読書感想文」の書き方の説明（pp.456-461）を読んでおいてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスガイダンス 国語表現の授業の概要を述べ、その意義と目的について説明する。		
		2週	夢十夜（小説1） 夏目漱石や近代文学について基本的な知識を学ぶ。		
		3週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		4週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		5週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		6週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		7週	感想文の基礎		
		8週	コルベ神父（小説2） 遠藤周作についての文学史的知識を得る。		
	2ndQ	9週	コルベ神父（小説2）		
		10週	コルベ神父（小説2）		
		11週	コルベ神父（小説2）		
		12週	レポートの書き方		
		13週	感想文の基礎		
		14週	感想文の組み立て		
		15週	原稿用紙の使い方の確認と清書		
		16週			
後期	3rdQ	1週	「しきり」の文化論（評論1）		
		2週	「しきり」の文化論（評論1）		
		3週	「しきり」の文化論（評論1）		
		4週	「しきり」の文化論（評論1）		
		5週	小論文の書き方（1）		
		6週	小論文の書き方（2）		
		7週	小論文の書き方（3）		
		8週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
	4thQ	9週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		10週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		11週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		

	12週	小論文の実践（1）	
	13週	小論文の実践（2）	
	14週	小論文の実践（3）	
	15週	小論文の実践（4）	
	16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	提出物	漢字テスト	合計
総合評価割合	40	40	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	40	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	政治・経済
科目基礎情報					
科目番号	0039	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『最新図説 政経』: 浜島書店				
担当教員	石関 正典				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 広い視野からの観察を通して、社会の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 <input type="checkbox"/> 選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 新聞記事等を活用し、適宜、時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。	民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。	民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。		
	市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。	市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。	市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。		
	政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。	政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。	政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A-1					
教育方法等					
概要	授業は講義形式で進める。前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 ・ 政治分野では、民主政治の基本原則、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）、政党と政治について取り上げる。 ・ 経済分野では、経済社会の変容、現代経済の仕組み（現代の企業、市場経済、経済成長）、経済活動と福祉の向上、国際経済について取り上げる				
授業の進め方・方法					
注意点	その他、適宜にワークシート、新聞記事等の補助教材も作成・使用する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治社会の特質	政治の意義、国家と主権、国家のあり方に関する学説を理解する。	
		2週	民主政治の基本原則（1） 自然法思想と社会契約説	自然法と自然権、ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説を理解する。	
		3週	民主政治の基本原則（2） 法の支配	法の支配と法治主義、権力分立の仕組みを理解する。	
		4週	民主政治の基本原則（3） 人権保障の発展	人権保障の歴史的発展過程と、国際的な人権保障の枠組みを理解する。	
		5週	日本国憲法と平和主義（1） 日本国憲法の成立	日本国憲法の成立過程、日本国憲法の基本原則を理解する。	
		6週	日本国憲法と平和主義（2） 平和主義とわが国の防衛政策	日本国憲法の平和主義に関する規定、わが国の防衛政策について理解する。	
		7週	日本国憲法と平和主義（3） 自衛隊の国際貢献と有事法制	自衛隊と国際貢献、わが国の有事法制整備の過程を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	日本国憲法と基本的人権（1） 平等権・自由権	具体的な判例を事例に、日本国憲法における平等権、自由権に関する規定を理解する。	
		10週	日本国憲法と基本的人権（2） 社会権	具体的な判例を事例に、日本国憲法における社会権に関する規定やその意義を理解する。	
		11週	日本国憲法と基本的人権（3） 新しい人権	社会の変化に伴い、憲法に明文規定のない、新しい人権が主張されるようになったことを理解する。	
		12週	日本の政治機構（1） 国会の組織と立法	わが国の国会の仕組み（二院制、委員会中心主義等）や、国会の役割を理解する。	
		13週	日本の政治機構（2） 国会の組織と立法 その2	衆議院の優越と議院内閣制の意義を理解する。	
		14週	日本の政治機構（3） 内閣の機構と行政	わが国の内閣の機構や、内閣の役割を理解する。	
		15週	日本の政治機構（4） 裁判所の機能と司法制度	わが国の裁判の仕組みや司法権の独立の意義、司法制度改革について理解する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	経済社会の変容（1） 経済社会の成り立ち	経済的なものの見方や考え方、世界の経済体制について理解する。	

		2週	経済社会の変容（2） 資本主義経済	資本主義経済の特徴と歴史的発展過程を理解する。
		3週	経済社会の変容（3） 社会主義経済	社会主義経済の特徴とその意義を理解する。
		4週	現代経済の仕組み1（1） 経済主体と経済活動	経済主体と経済循環、株式会社の仕組みを理解する。
		5週	現代経済の仕組み1（2） 市場の機能と限界	市場メカニズムによる価格決定の仕組み、市場の失敗と政府の役割を理解する。
		6週	現代経済の仕組み1（3） 現代市場の特徴	独占と寡占、非価格競争など現代市場の特徴を理解する。
		7週	現代経済の仕組み1（4） 国民所得と経済成長	国民所得と豊かさの指標、経済成長と景気循環の局面を理解する。
		8週	中間試験	
		4thQ	9週	現代経済の仕組み2（1） 貨幣と金融
	10週		現代経済の仕組み2（2） 財政の仕組みとはたらき	財政の役割と財政政策の仕組み、租税の種類を理解する。
	11週		日本の経済成長と課題（1） 労働問題	わが国の労働事情の変化（リストラ、長時間労働等）や非正規雇用問題を理解する。
	12週		日本の経済成長と課題（2） 社会保障制度	わが国の社会保障制度の種類と役割、課題を理解する。
	13週		国際経済（1） 外国為替の仕組み	外国為替の仕組み、円高・円安の意味と経済への影響を理解する。
	14週		国際経済（2） 地域的経済統合	世界の主要な地域的経済統合（EU、ASEAN等）の種類と特徴を理解する。
	15週		学習のまとめ	これまでの学習内容を整理し、理解を深める。
	16週			

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学A I		
科目基礎情報							
科目番号	0041	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	一般教育	対象学年	2				
開設期	前期	週時間数	4				
教科書/教材	新微分積分I						
担当教員	吉田 はん						
到達目標							
<p>微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 合成関数の導関数、三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 関数のグラフの接線と法線を求められる。 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	微分係数、導関数の定義を十分理解できる。	微分係数、導関数の定義が理解できる。	微分係数、導関数の定義が理解できない。				
評価項目2	導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。	導関数と関数の増減の関係を理解できる。	導関数と関数の増減の関係を理解できない。				
評価項目3	媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。	媒介変数表示された関数の導関数を求められる。	媒介変数表示された関数の導関数を求められない。				
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程 B-1							
教育方法等							
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。 						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)	いろいろな関数の極限を求めることができる。			
		2週	関数の極限と導関数 (2)	微分係数の意味を理解し、求めることができる。			
		3週	関数の極限と導関数 (3)	導関数の定義を理解している。			
		4週	関数の極限と導関数 (4)	積・商の導関数の公式を使うことができる。			
		5週	いろいろな関数の導関数 (1)	合成関数の導関数を求めることができる。			
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)	三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。			
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)	逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。			
		8週	関数の変動 (1)	基本的な関数の接線の方程式を求めることができる。			
	2ndQ	9週	関数の変動 (2)	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。			
		10週	関数の変動 (3)	関数の最大値・最小値を求めることができる。			
		11週	関数の変動 (4)	ロピタルの定理を理解できる。			
		12週	いろいろな応用 (1)	2次以上の導関数を求めることができる。			
		13週	いろいろな応用 (2)	関数の凹凸、変曲点を求めることができる。			
		14週	いろいろな応用 (3)	関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。			
		15週	いろいろな応用 (4)	速度、加速度を理解できる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学A II		
科目基礎情報							
科目番号	0042	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	一般教育	対象学年	2				
開設期	後期	週時間数	4				
教科書/教材	新微積分I						
担当教員	吉田 はん						
到達目標							
<p>定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 広義積分ができる。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。	定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。	定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。				
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。	置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。	置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。				
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。	広義積分ができる。	広義積分ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程 B-1							
教育方法等							
概要	<p>1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。</p>						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	不定積分と定積分 (1)	不定積分の定義を理解している。			
		2週	不定積分と定積分 (2)	定積分の基本的な計算ができる。			
		3週	不定積分と定積分 (3)	微積分の基本定理を理解している。			
		4週	積分の計算 (1)	置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。			
		5週	積分の計算 (2)	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。			
		6週	積分の計算 (3)	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
		7週	積分の計算 (4)	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
	4thQ	8週	面積・曲線の長さ・体積 (1)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		9週	面積・曲線の長さ・体積 (2)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (3)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (4)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		12週	いろいろな応用 (1)	いろいろな曲線の長さを求めることができる。			
		13週	いろいろな応用 (2)	いろいろな曲線の長さを求めることができる。			
		14週	いろいろな応用 (3)	基本的な立体の体積を求めることができる。			
		15週	いろいろな応用 (4)	基本的な立体の体積を求めることができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理 I
科目基礎情報					
科目番号	0043		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 総合物理1—力と運動・熱—: 國友 正和 (ほか) 著: 数研出版: 978-4410812026 教科書: 総合物理2—波・電気と磁気・原子—: 國友 正和 (ほか) 著: 数研出版: 978-4410812125 傍用問題集: 改訂版リードα物理基礎・物理: 数研出版編集部 編: 数研出版: 978-4410262753 図解: 新課程フォトサイエンス物理図録: 数研出版編集部 編: 数研出版: 978-4410263125 他に, 新課程フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気(数研出版)および新課程フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気(数研出版)も傍用問題集として指定する.				
担当教員	渡邊 悠貴				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 <input type="checkbox"/> 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。		
評価項目2	正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。	正弦波の式について理解し, 図示することができる。	正弦波の式について理解し, 図示することができない。		
評価項目3	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。		
評価項目4	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 B-1					
教育方法等					
概要	高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。				
授業の進め方・方法	座学, 演実実験など				
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうな疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)	熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。	
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)	気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。 気体の分子運動について説明できる。	
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)	熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。	
		4週	波(1) (問題集単元14, 15)	縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。	
		5週	波(2) (問題集単元14, 15)	波の反射について説明できる。	
		6週	波(3) (問題集単元16)	平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。	
		7週	中間試験	第1週-第5週の講義内容に関する試験	
		8週	音(1) (問題集単元17)	音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。	
	2ndQ	9週	音(2) (問題集単元18)	ドップラー効果に関する計算と説明ができる。	
		10週	光(1) (問題集単元19)	光の性質と進み方について説明できる。	
		11週	光(2) (問題集単元19)	レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。	
		12週	光(3) (問題集単元20)	光の回折と干渉について説明できる。	
		13週	静電場(1) (問題集単元21)	電荷と電気力に関する計算と説明ができる。	
		14週	静電場(2) (問題集単元21)	電場に関する計算と説明ができる。	
		15週	静電場(3) (問題集単元21)	電位に関する計算と説明ができる。	

		16週	定期試験	第6週-第15週の講義内容に関する試験			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0044	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	4		
教科書/教材	総合物理 2 一波・電気と磁気・原子, 改訂版リードα物理基礎・物理, 新課程フォローアップドリル物理基礎/物理, 新課程フォトサイエンス物理図録				
担当教員	渡邊 悠貴				
到達目標					
<input type="checkbox"/> コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる。 <input type="checkbox"/> 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる。	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる。	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない。	
評価項目2		電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。	電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。	電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない。	
評価項目3		誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる。	誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる。	誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない。	
評価項目4		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる。	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる。	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する。				
授業の進め方・方法	座学, 演示実験など				
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	電気容量(1)	コンデンサーの性質について理解することができる。	
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗	コンデンサーの並列接続, 直列接続について理解できる。 オームの法則を用いて, 電圧, 電流, 抵抗に関する計算ができる。	
		3週	直流回路 半導体	抵抗の直列接続, 並列接続時の合成抵抗を求めることができる。 キルヒホッフの法則を用いて, 電気回路に関する問題を解くことができる。 半導体の性質を理解することができる。	
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1)	磁界の性質を理解することが出来る。 電流の作る磁界について理解できる。 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。	
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1)	電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。	
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1)	荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。 ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる。	
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導	誘導起電力を求めることができる。 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる。	
		8週	交流回路	交流電流・交流電圧の特徴を理解し, 交流回路に関する問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	電磁波	電磁波の性質を理解することができる。	
		10週	電子の発見	電子の性質を説明できる。 電子の比電荷の計算ができる。	
		11週	波動と粒子の二重性	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について, 電子の干渉実験などを通して理解することができる。	
		12週	原子模型 原子核の構成	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から, 水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。	

		13週	原子核の崩壊と放射能	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	素粒子と宇宙	素粒子の分類をすることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育
科目基礎情報					
科目番号	0045	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	佐藤 孝之				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 <input type="checkbox"/> 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	ルールを理解し、説明できる。	ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない。	よくわからないし、ルールも理解できていない。		
	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた。	友人のマネをしながら安全に効率よく動けた。	安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった。		
	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた。	積極的に参加したいと思っていた。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った。	とりあえず、準備片付けは手伝った。	特に何もしなかった。		
	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した。	とりあえず、自分の役割は果たした。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A					
教育方法等					
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。				
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意	授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。	
		2週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		3週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		4週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
		12週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		13週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。	
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	

4thQ	2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
	16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0047	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	MY WAY English Communication II (三省堂)				
担当教員	飯野 一彦				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英熟語の意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。 <input type="checkbox"/> 上記の理解に基づきながら、教科書の英文を読み、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 音声から教科書の英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書に出てくる英単語の意味と発音を正確に理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できない。		
評価項目2	教科書に出てくる英文法の事項を正確に理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できない。		
評価項目3	教科書の英文を読み、内容を正確に理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	本授業では、基本的な語彙と熟語を理解し、文法に基づいて、基本的な英文を理解できるようにする。				
授業の進め方・方法	本授業では、まず基本的な語彙と熟語をリスニングや発音を含めて学習する。次に、習得した語彙をもとに、文法に基づいて正しく英文を理解する訓練を行う。				
注意点	本授業では、予習・復習を確実にを行い、地道に学習を継続することが要求される。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容・方法の概要説明	授業内容・方法の理解	
		2週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		3週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		4週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		5週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		6週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		7週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項の理解	
	2ndQ	9週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		10週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		11週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		12週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		13週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		14週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		15週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		16週	前期末試験	既習の学習事項の理解	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		2週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		3週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		4週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		5週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		6週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	

4thQ	7週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解
	8週	後期中間試験	既習の学習事項の理解
	9週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	10週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	11週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	12週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	13週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	14週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	15週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
16週	後期期末試験	既習の学習事項の理解	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Circuit 読解力・作文力のための重要表現 Basic 55; 米山達郎編著: いいずな書店参考書: 総合英語 be New Edition; 平賀正子監修、鈴木希明編著: いいずな書店※ 授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。				
担当教員	八鳥 吉明				
到達目標					
教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 教科書に出てくる英熟語の意味と発音を理解できる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を読むことができる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を書くことができる。 音声から英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基本文法をよく理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法をある程度理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法を理解し、英文を読み、書くことができない。		
評価項目2	基本文法をよく理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法をある程度理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法を理解し、演習問題を解くことができない。		
評価項目3	重要語彙をよく理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙をある程度理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙を理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E					
教育方法等					
概要	1. 単語・熟語・・・単語・熟語の習得を通して語彙力をつける。 2. 英文法・・・演習問題を通して英文法の基本事項を習得する。 3. 英文読解・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 4. 英作文・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を書く訓練を行う。 5. リスニング・・・音声から英語を理解する訓練を行う。 6. 発音・音読・・・英単語の発音に注意を払い、英文の音読訓練を行なう。				
授業の進め方・方法	授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。 まず、教科書の解説を確認し、その上で学習内容を整理する。 その後、文法問題の演習を行いながら、重要語彙の確認も行なう。 最後に、英文のシャドーイングを行う。				
注意点	主体的に取り組み、「実力」をつけること。 そのために、予習・復習を確実に行うこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	01 「…している」は現在形か現在進行形か 02 「…している」が現在進行形にできない動詞	現在形と現在進行形を理解できる。	
		2週	03 過去時制と現在完了の使い分け 04 現在完了進行形	過去形と現在完了（進行）形を理解できる。	
		3週	05 〈時〉を表す副詞節の時制 (when) 06 〈条件〉を表す副詞節の時制 (if)	時と条件を表す副詞節の時制表現を理解できる。	
		4週	07 助動詞+have done 「…したはずがない」など 08 助動詞+have done 「…すべきだった」など	〈助動詞+完了形〉の表現を理解できる。	
		5週	09 仮定法過去と仮定法過去完了 10 If S should do 「(万一) …すれば」	仮定法過去と仮定法過去完了を理解できる。	
		6週	11 If it were not for A 「もしAがなければ」など 12 ifの省略	仮定法を用いた定型表現を理解できる。	
		7週	13 It is + 形容詞 + for[of] A to do 14 find it + 形容詞 + to do 「…することは～であるとわかる」	形式主語・形式目的語のitと不定詞の関係を理解できる。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項を理解できる。	
	2ndQ	9週	15 A is + 形容詞 + to do 16 ~ enough to do / too ~ to do	不定詞を用いた定型表現を理解できる。	
		10週	17 tell A to do 「Aに…するように言う」など 18 be said to do 「…とされている」	〈S + V + O + to do〉の構文を理解できる。	
		11週	19 動名詞を用いた定型表現① 20 動名詞を用いた定型表現②	動名詞を用いた定型表現を理解できる。	
		12週	21 目的語として動名詞をあとに続ける他動詞 22 目的語が動名詞か不定詞かで意味が変わる他動詞	他動詞と目的語の不定詞・動名詞の関係を理解できる。	
		13週	23 使役動詞 (let / make) 24 使役動詞 (have)	使役動詞を理解できる。	
		14週	25 SVO doingとSVO doneの使い分け 26 知覚動詞+O+do / doing / doneの使い分け	知覚動詞と〈S + V + O + 分詞〉の構文を理解できる。	
		15週	27 分詞構文 28 付帯状況のwith	分詞構文を理解できる。	
		16週	前期定期試験	既習の学習事項を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	29 分詞形容詞	形容詞の分詞的用法を理解できる。	

4thQ	2週	32 関係代名詞① (目的格) 33 関係代名詞② (所有格)	関係代名詞の基本的表現を理解できる。
	3週	34 関係代名詞③ (前置詞の目的語) 35 前置詞+ which/関係副詞	関係代名詞と前置詞の関係を理解できる。
	4週	36 関係代名詞whatの用法 37 関係代名詞thatと接続詞that	関係代名詞のwhatを理解できる。 関係代名詞のthatと接続詞のthatの違いを理解できる。
	5週	38 so ... that ~ 「とても…なので~」 39 such ... that ~ 「とても…なので~」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	6週	40 ... so that ~ 「~するために [ように] …する」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	7週	41 接続詞as 42 名詞節を導く接続詞 (whether / if)	接続詞の as / whether / if を理解できる。
	8週	後期中間試験	既習の学習事項を理解できる。
	9週	45 可算名詞と不可算名詞 46 数・量を表す形容詞	可算名詞と不可算名詞を理解できる。 数・量を表す形容詞を理解できる。
	10週	43 and / or / butの用法 44 and / or / butを用いた慣用表現	接続詞の and / or / but を理解できる。
	11週	47 原級を用いた倍数表現 48 原級を用いた慣用表現	原級を用いた比較表現を理解できる。
	12週	49 (the+比較級) を用いた表現 50 最上級の意味を表す表現	比較を用いた定型表現を理解できる。
	13週	51 間接疑問 52 倒置	間接疑問と倒置の表現を理解できる。
	14週	53 強調構文	強調構文を理解できる。
	15週	54 全否定と部分否定 55 no / notを含まない否定表現	否定表現を理解できる。
	16週	後期定期試験	既習の学習事項を理解できる。

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0049	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	国語総合古典編(大修館書店)/新訂総合国語便覧(第一学習社)				
担当教員	大島 由紀夫				
到達目標					
古典を読解・鑑賞する能力を伸ばすとともに、ものの見方や考え方を豊かにし、日本文化に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。		
評価項目2	文意をふまえて、古文・漢文の音読に習熟し、リズムを味わうことができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読することができる。	文意をふまえて古文・漢文を音読できない。		
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 B-2					
教育方法等					
概要	1年次既習「古典」の学習成果に基づき、基礎的な古典文法や古典常識を現代のそれと比較しつつ古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。古文教材においては、歴史・文化等の作品成立背景を理解しながら、『古今和歌集』『平家物語』をとりあげて読解・鑑賞し、現代と対照しつつ日本文化の諸相を概観する。漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・唐詩・『十八史略』をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。				
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。必要に応じて視聴覚教材を使用する。				
注意点	〈声に出して読むこと〉〈辞書をひいて調べること〉を大切にしてください。また、ノートは「板書を写すもの」ではなく、「自らがつくるもの」であることに留意してください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する。これまでの古典学習の成果を確認する。	
		2週	日本語の表記と発音(1)	日本語の表記方法の成り立ちについて概要を理解する。	
		3週	日本語の表記と発音(2)	日本語の発音の変遷について概要を理解する。	
		4週	日本語の表記と発音(3)	日本語の表記方法の変遷について概要を理解する。	
		5週	古今和歌集(1)	韻文表現の史的展開について概要を理解する。集の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		6週	古今和歌集(2)	仮名序の冒頭部を読解する。読解に必要な文法を理解する。	
		7週	古今和歌集(3)	所収歌を読解・鑑賞する。読解に必要な和歌の修辞・技巧を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	古今和歌集(4)	所収歌を読解・鑑賞する。各歌の特色をふまえて感想をまとめる。	
		10週	平家物語(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。	
		11週	平家物語(2)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。文体の特色を理解し、音読に習熟する。	
		12週	平家物語(3)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。敬語表現を理解する。	
		13週	平家物語(4)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。頻出助動詞の用法を理解する。	
		14週	平家物語(5)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。当代「武士の世界」について理解を深める。	
		15週	平家物語(6)	巻九「木曾の最期」を読解・鑑賞する。現代語訳の作成に習熟する。	
		16週	平家物語(7)	読解・鑑賞の成果をまとめる。音読テストに合格する。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門(1)	訓読法の基礎を理解する。	
		2週	漢文入門(2)	訓点に従って短い漢文を訓読できる。	
		3週	漢文入門(3)	再読文字や助字の用法を理解する。	
		4週	故事(1)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。訓点に従って文章を訓読できる。	
		5週	故事(2)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。書き下し文を作成することができる。	

4thQ	6週	故事(3)	故事を記す文章を読解・鑑賞する。 語法等を理解して現代語に訳することができる。
	7週	故事(4)	故事成語のいわれや意味について調べ、理解する。
	8週	中間試験	
	9週	漢詩(1)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	10週	漢詩(2)	近体詩の特徴を理解し、唐詩数編を読解・鑑賞する。
	11週	漢詩(3)	李白・杜甫など、代表的な詩人について調べ、文学史上での位置づけを理解する。
	12週	十八史略(1)	作品の概要・文学史上での位置づけを理解する。
	13週	十八史略(2)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 訓点に従って訓読することができる。
	14週	十八史略(3)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 書き下し文を作成することができる。
	15週	十八史略(4)	「臥薪嘗胆」を読解・鑑賞する。 読解に必要な語法をふまえて現代語に訳することができる。
	16週	十八史略(5)	時代背景をふまえて、「臥薪嘗胆」の内容を理解する。 音読テストに合格する。

評価割合

	試験	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 国語総合 現代文編 大修館書店 9784469622751 参考書 新訂 総合国語便覧 第一学習社 9784804033013 参考書 常用漢字フォルダ 浜島書店				
担当教員	太田 たまき				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 論理的な文章を客観的に理解することができる。 <input type="checkbox"/> 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 <input type="checkbox"/> 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章を十分に客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができる。	論理的な文章を客観的に理解することができない。		
評価項目2	文学的な文章を十分に多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。	文学的な文章を多角的に鑑賞することができない。		
評価項目3	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を十分に養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。	自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-1					
教育方法等					
概要	論理的文章を教材とする授業においては、語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、論旨の把握、意見文の書き方を身につける。 文学的文章・韻文を教材とする授業においては、登場人物の心理を筋に即して読み取ること、あるいは凝縮された表現からイメージを膨らませる鑑賞力を身に付けるとともに、それに対する感想を表現できる力を養う。				
授業の進め方・方法	2年生の国語表現は、他者の書いた文章を正確に理解することから始まり、そこから自分の意見を持ち、表現する力へと発展させていきます。ノートは縦書き使用を原則とし、授業には常に国語辞典と国語便覧を持参してください。授業の冒頭に毎回漢字テストを行いますので、予習の習慣を身につけましょう。				
注意点	『新訂 総合国語便覧』（第一学習社）の「夏目漱石」（pp.272-277）「遠藤周作」（p.301）、「意見文」「読書感想文」の書き方の説明（pp.456-461）を読んでおいてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスガイダンス 国語表現の授業の概要を述べ、その意義と目的について説明する。		
		2週	夢十夜（小説1） 夏目漱石や近代文学について基本的な知識を学ぶ。		
		3週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		4週	夢十夜（小説1） 第一夜		
		5週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		6週	夢十夜（小説1） 第六夜		
		7週	感想文の基礎		
		8週	コルベ神父（小説2） 遠藤周作についての文学史的知識を得る。		
	2ndQ	9週	コルベ神父（小説2）		
		10週	コルベ神父（小説2）		
		11週	コルベ神父（小説2）		
		12週	レポートの書き方		
		13週	感想文の基礎		
		14週	感想文の組み立て		
		15週	原稿用紙の使い方の確認と清書		
		16週			
後期	3rdQ	1週	「しきり」の文化論（評論1）		
		2週	「しきり」の文化論（評論1）		
		3週	「しきり」の文化論（評論1）		
		4週	「しきり」の文化論（評論1）		
		5週	小論文の書き方（1）		
		6週	小論文の書き方（2）		
		7週	小論文の書き方（3）		
		8週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
	4thQ	9週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		10週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		
		11週	ゆらぐ科学のリアリティー（評論2）		

	12週	小論文の実践（1）	
	13週	小論文の実践（2）	
	14週	小論文の実践（3）	
	15週	小論文の実践（4）	
	16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	提出物	漢字テスト	合計
総合評価割合	40	40	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	40	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報							
科目番号	0054	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	一般教育	対象学年	2				
開設期	後期	週時間数	4				
教科書/教材	新微積分I						
担当教員	吉田 はん						
到達目標							
<p>定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 広義積分ができる。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。	定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。	定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。				
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。	置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。	置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。				
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。	広義積分ができる。	広義積分ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程 B-1							
教育方法等							
概要	<p>1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。</p>						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	不定積分と定積分 (1)	不定積分の定義を理解している。			
		2週	不定積分と定積分 (2)	定積分の基本的な計算ができる。			
		3週	不定積分と定積分 (3)	微積分の基本定理を理解している。			
		4週	積分の計算 (1)	置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。			
		5週	積分の計算 (2)	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。			
		6週	積分の計算 (3)	分数関数、無理関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
		7週	積分の計算 (4)	三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。			
		8週	面積・曲線の長さ・体積 (1)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
	4thQ	9週	面積・曲線の長さ・体積 (2)	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (3)	いろいろな曲線の長さを求めることができる。			
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (4)	回転体の体積を求められる。			
		12週	いろいろな応用 (1)	媒介変数表示された図形の面積を求められる。			
		13週	いろいろな応用 (2)	媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。			
		14週	いろいろな応用 (3)	極座標を理解できる			
		15週	いろいろな応用 (4)	広義積分を理解できる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育
科目基礎情報					
科目番号	0057	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	佐藤 孝之				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 <input type="checkbox"/> 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 <input type="checkbox"/> 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	ルールを理解し、説明できる。	ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない。	よくわからないし、ルールも理解できていない。		
	ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた。	友人のマネをしながら安全に効率よく動けた。	安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった。		
	実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた。	積極的に参加したいと思っていた。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
	コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った。	とりあえず、準備片付けは手伝った。	特に何もしなかった。		
	チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した。	とりあえず、自分の役割は果たした。	実技は苦手なので積極的になれなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 A					
教育方法等					
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。				
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意	授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。	
		2週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		3週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		4週	運動能力テストの実施	運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。	
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。	
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。	
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。	
		12週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		13週	水泳の基本的技術の習得	基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。	
		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。	
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。	

4thQ	2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
	12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
	13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
	15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
	16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	MY WAY English Communication II (三省堂)				
担当教員	飯野 一彦				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英熟語の意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。 <input type="checkbox"/> 上記の理解に基づきながら、教科書の英文を読み、内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 音声から教科書の英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書に出てくる英単語の意味と発音を正確に理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。	教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できない。		
評価項目2	教科書に出てくる英文法の事項を正確に理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できる。	教科書に出てくる英文法の事項を理解できない。		
評価項目3	教科書の英文を読み、内容を正確に理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解することができる。	教科書の英文を読み、内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E-3					
教育方法等					
概要	本授業では、基本的な語彙と熟語を理解し、文法に基づいて、基本的な英文を理解できるようにする。				
授業の進め方・方法	本授業では、まず基本的な語彙と熟語をリスニングや発音を含めて学習する。次に、習得した語彙をもとに、文法に基づいて正しく英文を理解する訓練を行う。				
注意点	本授業では、予習・復習を確実にを行い、地道に学習を継続することが要求される。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容・方法の概要説明	授業内容・方法の理解	
		2週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		3週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		4週	Lesson 1: Pictogram	ピクトグラムの理解、および文法では、SV, SVO, SVCを理解する。	
		5週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		6週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		7週	Lesson 2: New Year's Celebrations	世界のお正月の文化的な違いの理解、および文法では、SVOO, SVOCを理解する。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項の理解	
	2ndQ	9週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		10週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		11週	Lesson 3: Eco-friendly Inventions	環境にやさしい発明品に関する理解、および文法では、形式主語・形式目的語の理解	
		12週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		13週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		14週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		15週	Lesson 4: Brazil - Far away or Close	ブラジルの文化理解、および文法では、知覚動詞・使役動詞の理解	
		16週	前期末試験	既習の学習事項の理解	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		2週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		3週	Lesson 5: Eye Contact	言語以外のコミュニケーションの理解、および文法では、関係代名詞の理解	
		4週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		5週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	
		6週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解	

4thQ	7週	Lesson 6: A Space Elevator	最新科学技術の理解、および文法では、現在完了形・現在完了進行形の理解
	8週	後期中間試験	既習の学習事項の理解
	9週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	10週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	11週	Lesson 7: An Encouraging Song	歌が与える影響についての理解、および文法では、助動詞・固有名詞の理解
	12週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	13週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	14週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
	15週	Lesson 8: Language Contact	言葉と文化の関係の理解、および文法では、仮定法の理解
16週	後期期末試験	既習の学習事項の理解	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	0060		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Circuit 読解力・作文力のための重要表現 Basic 55; 米山達郎編著: いっずな書店参考書: 総合英語 be New Edition; 平賀正子監修、鈴木希明編著: いっずな書店※ 授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。				
担当教員	八鳥 吉明				
到達目標					
教科書に出てくる英単語の意味と発音を理解できる。 教科書に出てくる英熟語の意味と発音を理解できる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を読むことができる。 基本英文法の理解に基づきながら、英文を書くことができる。 音声から英文の内容を理解し、また英文を音読することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	基本文法をよく理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法をある程度理解し、英文を読み、書くことができる。	基本文法を理解し、英文を読み、書くことができない。		
評価項目2	基本文法をよく理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法をある程度理解し、演習問題を解くことができる。	基本文法を理解し、演習問題を解くことができない。		
評価項目3	重要語彙をよく理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙をある程度理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができる。	重要語彙を理解し、英語から日本語に、日本語から英語に、翻訳することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 E					
教育方法等					
概要	1. 単語・熟語・・・単語・熟語の習得を通して語彙力をつける。 2. 英文法・・・演習問題を通して英文法の基本事項を習得する。 3. 英文読解・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を読む訓練を行う。 4. 英作文・・・単語・熟語・英文法の知識を有機的に結び付けて英文を書く訓練を行う。 5. リスニング・・・音声から英語を理解する訓練を行う。 6. 発音・音読・・・英単語の発音に注意を払い、英文の音読訓練を行なう。				
授業の進め方・方法	授業では、教科書を独自に再編集したプリント教材を使用する。 まず、教科書の解説を確認し、その上で学習内容を整理する。 その後、文法問題の演習を行いながら、重要語彙の確認も行なう。 最後に、英文のシャドーイングを行う。				
注意点	主体的に取り組み、「実力」をつけること。 そのために、予習・復習を確実に行うこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	01 「…している」は現在形か現在進行形か 02 「…している」が現在進行形にできない動詞	現在形と現在進行形を理解できる。	
		2週	03 過去時制と現在完了の使い分け 04 現在完了進行形	過去形と現在完了（進行）形を理解できる。	
		3週	05 〈時〉を表す副詞節の時制 (when) 06 〈条件〉を表す副詞節の時制 (if)	時と条件を表す副詞節の時制表現を理解できる。	
		4週	07 助動詞+have done 「…したはずがない」など 08 助動詞+have done 「…すべきだった」など	〈助動詞+完了形〉の表現を理解できる。	
		5週	09 仮定法過去と仮定法過去完了 10 If S should do 「(万一) …すれば」	仮定法過去と仮定法過去完了を理解できる。	
		6週	11 If it were not for A 「もしAがなければ」など 12 ifの省略	仮定法を用いた定型表現を理解できる。	
		7週	13 It is + 形容詞 + for[of] A to do 14 find it + 形容詞 + to do 「…することは～であるとわかる」	形式主語・形式目的語のitと不定詞の関係を理解できる。	
		8週	前期中間試験	既習の学習事項を理解できる。	
	2ndQ	9週	15 A is + 形容詞 + to do 16 ~ enough to do / too ~ to do	不定詞を用いた定型表現を理解できる。	
		10週	17 tell A to do 「Aに…するように言う」など 18 be said to do 「…とされている」	〈S + V + O + to do〉の構文を理解できる。	
		11週	19 動名詞を用いた定型表現① 20 動名詞を用いた定型表現②	動名詞を用いた定型表現を理解できる。	
		12週	21 目的語として動名詞をあとに続ける他動詞 22 目的語が動名詞か不定詞かで意味が変わる他動詞	他動詞と目的語の不定詞・動名詞の関係を理解できる。	
		13週	23 使役動詞 (let / make) 24 使役動詞 (have)	使役動詞を理解できる。	
		14週	25 SVO doingとSVO doneの使い分け 26 知覚動詞+O+do / doing / doneの使い分け	知覚動詞と〈S + V + O + 分詞〉の構文を理解できる。	
		15週	27 分詞構文 28 付帯状況のwith	分詞構文を理解できる。	
		16週	前期定期試験	既習の学習事項を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	29 分詞形容詞	形容詞の分詞的用法を理解できる。	

4thQ	2週	32 関係代名詞① (目的格) 33 関係代名詞② (所有格)	関係代名詞の基本的表現を理解できる。
	3週	34 関係代名詞③ (前置詞の目的語) 35 前置詞+ which/関係副詞	関係代名詞と前置詞の関係を理解できる。
	4週	36 関係代名詞whatの用法 37 関係代名詞thatと接続詞that	関係代名詞のwhatを理解できる。 関係代名詞のthatと接続詞のthatの違いを理解できる。
	5週	38 so ... that ~ 「とても…なので~」 39 such ... that ~ 「とても…なので~」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	6週	40 ... so that ~ 「~するために [ように] …する」	thatを用いた定型表現を理解できる。
	7週	41 接続詞as 42 名詞節を導く接続詞 (whether / if)	接続詞の as / whether / if を理解できる。
	8週	後期中間試験	既習の学習事項を理解できる。
	9週	45 可算名詞と不可算名詞 46 数・量を表す形容詞	可算名詞と不可算名詞を理解できる。 数・量を表す形容詞を理解できる。
	10週	43 and / or / butの用法 44 and / or / butを用いた慣用表現	接続詞の and / or / but を理解できる。
	11週	47 原級を用いた倍数表現 48 原級を用いた慣用表現	原級を用いた比較表現を理解できる。
	12週	49 (the+比較級) を用いた表現 50 最上級の意味を表す表現	比較を用いた定型表現を理解できる。
	13週	51 間接疑問 52 倒置	間接疑問と倒置の表現を理解できる。
	14週	53 強調構文	強調構文を理解できる。
	15週	54 全否定と部分否定 55 no / notを含まない否定表現	否定表現を理解できる。
	16週	後期定期試験	既習の学習事項を理解できる。

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
前期	20	20	10	50
後期	20	20	10	50